

第64回 山陰眼科集談会

(日眼専門医制度生涯教育認定事業 No.59063)

プログラム

日時：2019年6月16日(日)
13時00分～16時50分
(懇親会：17時00分～)

場所：ニューウェルシティ出雲
島根県出雲市塩冶有原町 2-15-1 (〒693-0023)
TEL 0853 (23) 7388

会費：学会費 3,000円 懇親会費 2,000円
(コスメディカル・学生等 無料)

島根県眼科医会 島根大学医学部眼科学教室

【大学院講義対象科目】

修士課程選択科目： 再生医学・組織工学(M13)， 医療のための光工学の基礎(M29)
理工医学のための生物材料学の基礎 (M33)

博士課程選択必修科目： 臨床医科学(D5)

博士課程選択科目： 老化Ⅱ (D20)， 医療のための光工学 (D99)
理工医学のための生物材料学(D103)

お問い合わせ先：医学部眼科学講座 (内線2284)

—開会のあいさつ（島根県眼科医会 清水 正紀 会長）—

一般講演 I（13：00-14：17）

座長 高梨 泰至 副会長
（島根県眼科医会）

1. 鳥取県内におけるロービジョンに対するアンケート調査と今後の課題
○大松寛（鳥取大学），守本典子（岡山大学），佐々木慎一，井上幸次（鳥取大学）
2. 小児眼鏡フィッティング調査
○橋本恭平，石田博美，松本美幸，久岡亜沙未，唐下千寿，井上幸次（鳥取大学）
3. 当院における涙道内視鏡併用チューブ挿入術の治療成績
○白根授美（医療法人明誠会白根医院），大江雅子（多根記念眼科病院）
4. 当院で施行した多焦点眼内レンズ挿入症例の検討
○小村哲郎，吉廻浩子，高井保幸，土井涼子，安部梨奈，加藤加奈絵，
福田洋貴，戸川裕基，谷戸正樹（島根大学）
5. 狭隅角，チン氏体断裂眼に対する硝子体切除併用白内障手術の術後成績について
○藤原裕丈（大田市ふじわら眼科クリニック）
6. 開放隅角緑内障における黄斑部微小血管密度と網膜血流、および網膜血管径の関係
○白神智貴（島根大学・伊勢赤十字病院），高井保幸，杉原一暢，小村哲郎，
谷戸正樹（島根大学）
7. *Methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA)*による縫合糸感染の一例
○小松藍子，春木智子，宮崎大，井上幸次（鳥取大学）

—休憩（8分）—

一般講演Ⅱ（14：25-15：42）

座長 高井 保幸 講師

8. サイトメガロウイルス感染後ヒト線維柱帯細胞の転写応答

- 江原二三枝，宮崎大，清水由美子，佐々木慎一，井上幸次（鳥取大学），
足立香織（鳥取大・研究推進機構 研究基盤センター）
- 甲斐政親（鳥取大・技術部 医学系部門）
- 難波栄二（鳥取大学・研究推進機構 研究戦略室）

9. 落屑緑内障の隅角組織学的検討

- 辻中愛佳，海津幸子（島根大学），
小林加苗，濱中輝彦（日本赤十字医療センター），谷戸正樹（島根大学）

10. 6種眼内レンズの前方偏位量とその規定因子の測定

- 持地美帆子，海津幸子，谷戸正樹（島根大学）

11. マイクロフック ab interno トラベクトミー術後に遷延性低眼圧をきたした症例の検討

- 石田晃子，持地美帆子，真鍋 薫（島根大学），
松岡陽太郎（松江赤十字病院眼科部），谷戸正樹（島根大学）

12. マイクロフック ab interno トラベクトミーの成績

- 谷戸正樹，杉原一暢，辻中愛佳，原克典（島根大学），
藤原悦子，池田欣史，松岡陽太郎（松江赤十字病院眼科部）

13. 原発開放隅角緑内障における抗酸化サプリメントの眼圧および血中レドックスマーカーへの効果

- 真鍋薫，海津幸子，辻中愛佳，持地美帆子（島根大学），
松岡陽太郎（松江赤十字病院眼科部），高木泰孝，宮本悦代（参天製薬株式会社），
谷戸正樹（島根大学・松江赤十字病院眼科部）

14. 加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト単独治療成績

○小山泰良, 谷戸正樹 (島根大学)

—休憩 (8分) —

特別講演 I (15:50-16:50)

座長 谷戸 正樹 教授

涙道疾患の up-date

白石 敦 先生

(愛媛大学医学部眼科学講座 教授)

涙液は涙腺から分泌され、鼻腔に排出されますが、分泌—導涙のバランスが崩れたときに流涙症が発症します。つまり、涙液分泌亢進による分泌性流涙(lacrimation)と、導涙機能の低下による導涙性流涙(epiphora)があります。分泌性流涙はメディカル、導涙性流涙はサージカルでの治療が中心となりますので、発症原因を正確に突き止め治療方針を判断することが重要です。流涙症の原因となる眼表面疾患は角膜疾患、結膜疾患、ドライアイ、眼瞼疾患など多数存在しますが、疾患の部位別に整理して考えると把握しやすくなります。一方、導涙性流涙の主因である涙道通過障害では、流涙症状以外にも、視機能障害や感染症などの合併症症状をきたします。涙道感染症は気づかずに炎症が慢性化し、何十年と患者を苦しめて視力低下や、抗生物質の長期使用による耐性菌を作り出すこともあるので的確な診断と治療が求められます。

本講演では流涙症、涙道疾患の診察のポイント、治療戦略について Up-date させて頂くことにより、先生方の日々の診療に有意義な情報を提供できればと考えております。

—閉会のあいさつ (谷戸 正樹教授)

—懇親会 (17:00~) —